

連合獣医学研究科 ジョイントシンポジウム ボゴール農業大学 報告書
山口大学大学院連合獣医学研究科 博士課程3年 円城寺秀平

インドネシア国内の獣医大学が11大学と日本からは山口大学、鹿児島大学、鳥取大学が参加し、各大学間での特色や強みを理解し合うことで各大学間の連携や共同研究を推進することを目的に本シンポジウムが開催された。内容としては、各大学の代表者が自身の大学の紹介を行い、その後先生、学生を問わず多くの方がポスター発表を行った。私もポスター発表に参加して多くの方と研究内容についてディスカッションすることができた。また、他大学の方の発表についても詳しく聞くことができたため、大変有意義なセッションだったと感じた。大学間の連携や共同研究を促進させるという点に関しては大変良い内容であったと思う。その後はボゴール大学内の施設を新しく開設が進んでいるP3実験施設、小動物病院、馬や牛の飼育施設と順番に案内していただいた。国による文化の差や法律の違いもあると考えられるため、細かな違いは多くあったが、それとは関係なく小動物の病院施設の規模の大きさが衝撃的であった。施設内の設備についても手術中の映像を手術室外の生徒が確認できるように完備されているなど、教育という視点からも充実している印象を受けた。翌日はインドネシア内で最も多くの牛を飼育しているというPT. Sari Rejo Bumi Taposを訪問し、インドネシアにおける畜産の現場に触れることができた。特に印象的だったことは、頭数の多い牛をその年齢や性別、妊娠などの状況で細かく舎を分けて効率的な生産体制がとられており、牛舎の清潔さからも手入れや監視の目が行き届いていることが伺えたことである。また、乳牛、肉牛において、日本を含む多くの国では繁殖に用いる種牛以外のオスは去勢を行うことが一般的である。しかし、インドネシアではオスの去勢は好まれならしくあまり行われていなかった。

このような宗教を含む文化が大きく異なる国における獣医学の在り方を実際に知れたことはとても良い経験になった。今後も連携の強化を含め、シンポジウムの開催によりさらに発展していけば良いと感じた。

